

経営比較分析表（平成30年度決算）

熊本県 大津菊陽水道企業団

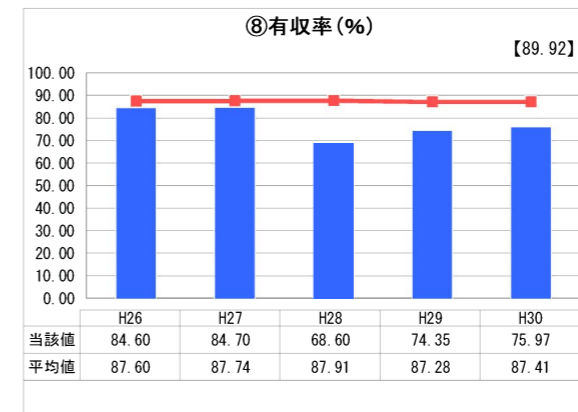
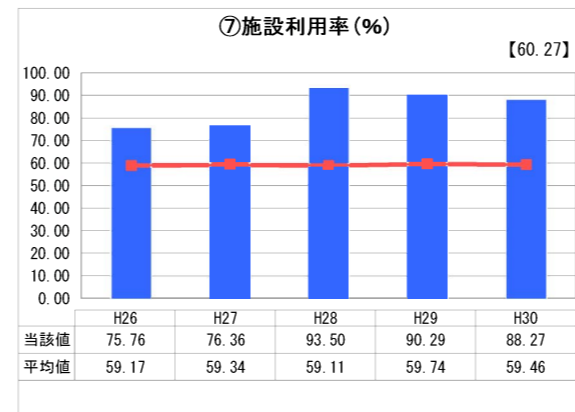
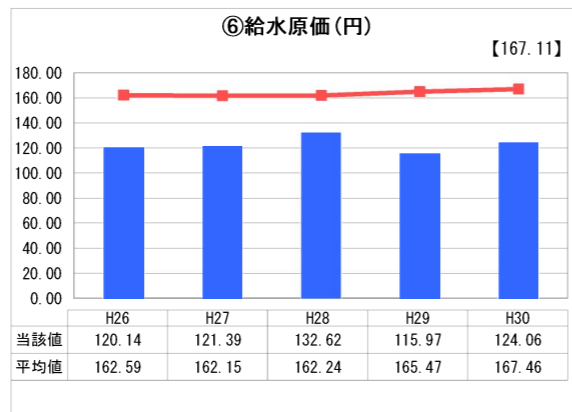
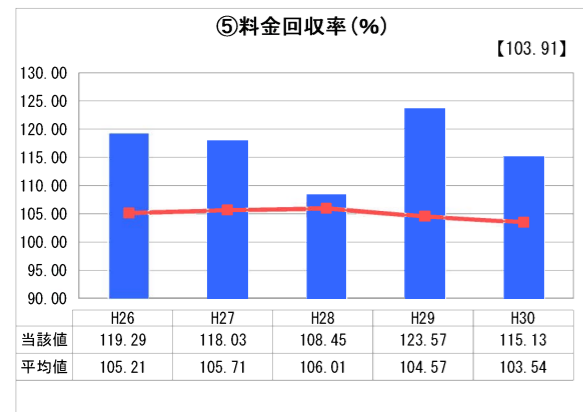
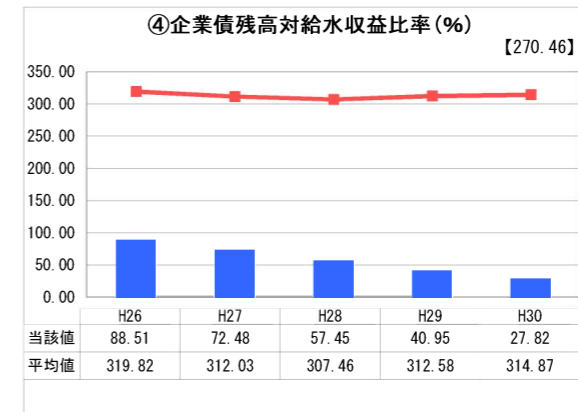
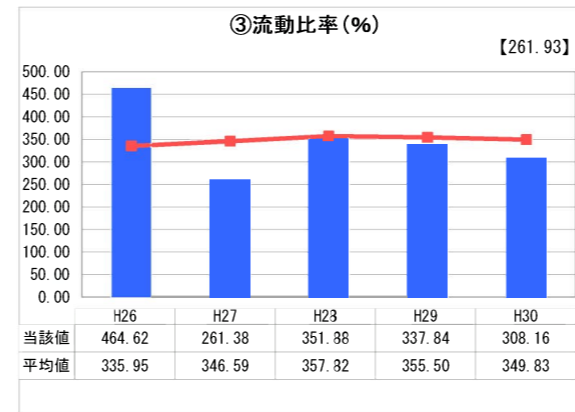
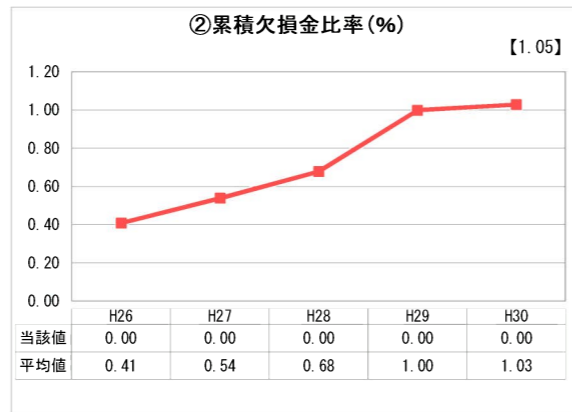
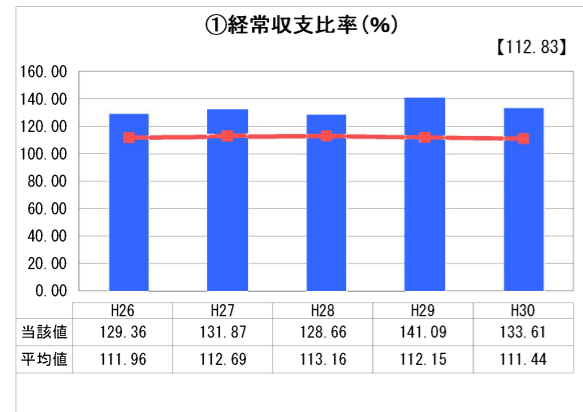
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	93.59	99.38	2,620	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
76,094	56.47	1,347.51

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

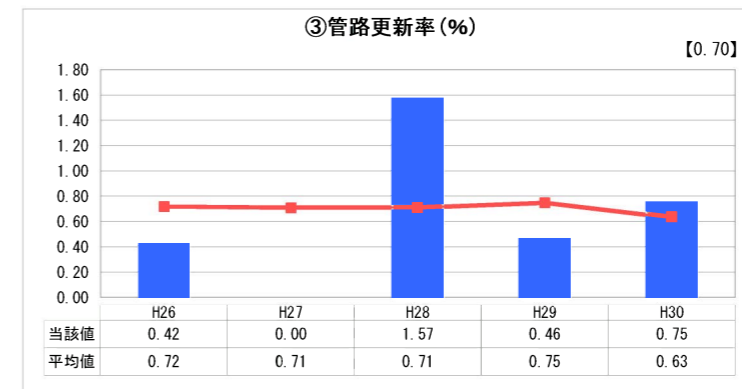
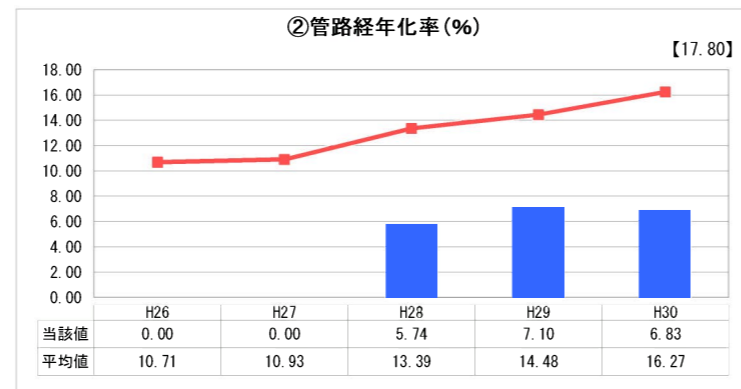
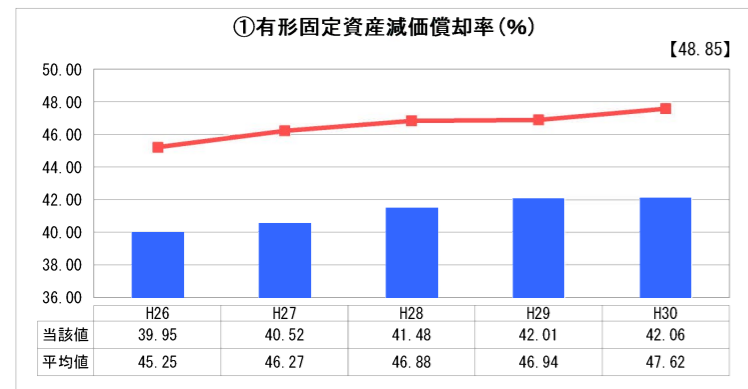
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%以上で推移しており、類似団体と比較しても高い水準にあり良好です。
 ② 累積欠損金は発生しておりません。
 ③ 流動比率は類似団体と比較するとやや低いものの良好な数値を示しており短期的な支払能力は十分備わっているといえます。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は企業債の償還が進んできていることから類似団体と比較しても大幅に低い数値となっています。
 ⑤ 料金回収率は100%以上であり給水に係る費用が給水収益で賄われていることが示されています。
 ⑥ 給水原価は、当企業団が良質な地下水を水源としていることから類似団体と比較しても低い水準で推移していますが、有収率の向上によってさらに良好な数値を目指すことが求められます。
 ⑦ 施設利用率は高い数値となっており有効に施設利用ができています。漏水対策や老朽管路の更新を促すことで有収率の向上を図り、当該指標をより適正に分析する必要があります。
 ⑧ 有収率は平成28年熊本地震によって大幅に低下しましたが、徐々に回復してきているところです。しかし、全国・類似団体との比較では未だ低い水準であることから継続して漏水対策に取り組んでいく必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率では償却資産の老朽化の状況が示されていますが、当該年度では更新を行ったことによって前年度比でほぼ横ばいとなっております。
 ② 管路経年化率は管路更新を行ったことにより前年度比でやや下降しており、全国・類似団体と比較しても低い水準です。
 ③ 管路更新率は当該年度においては、全国・類似団体比でほぼ同程度の水準でした。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全性・効率性に係る指標を分析すると概ね健全な経営ができています。また、老朽化の状況に関する指標から、当該年度においては施設や管路の更新によって資産の老朽化が進行していないことが見てとれます。しかし、今後は施設の老朽化が加速していくと見込まれており、そのことによる更新費用の増大、延滞は経営状況の悪化へとつながることが懸念されます。安定した経営を継続していくためにも基本計画に基づき企業債を活用しながら計画的な施設・管路の更新に取り組んでいきます。